

2015年11月29日から12月4日までチョーライ病院脳神経外科にて、虚血性脳血管障害に関する治療の適応と周術期管理に関してミニレクチャーを行いました。年間8000件を超える手術件数ですが、虚血性脳血管障害に関してはまだ十分に多いとは言えず、治療適応と実際の治療法についての解説とともに周術期管理に関しても認識することを目的としました。

チョーライ病院では「虚血性脳血管障害に関する治療の適応と周術期管理」に関して講義形式で発表をしました。虚血性脳血管障害に関しては、チョーライ病院では最近少しずつ症例が増加していますが、その他の疾患の比率からすると潜在的な症例数はより多いものと思われれます。現段階では適応と治療法についての認識が重要ではありますが、これまで周術期管理に関して十分に解説していなかったために今回の講義によって周術期管理の重要性を認識するものと思われれます。

今回の訪問でチョーライ病院には過去5年間で5回経験させていただいたこととなります。この5年間で変化した点としては手術用顕微鏡などのハード面の変化を感じましたが、それ以外でのソフト面ではあまり変化した印象を受けませんでした。チョーライ病院では手術件数は圧倒的に多く、医師の手術技量は相当なものと思われれますが、術後の合併症や周術期管理よりも手術をスピーディに完結することが求められていると思われれます。

今後の協力に関してですが、チョーライ病院の要望が当科で対応可能な分野であれば今後の協力も可能と思われれます。チョーライ病院脳神経外科の手術技術は、本邦における手術に求められるものと異なっており、周知の手術技術の指導に関してはあまり参考にはならないと思われれます。しかしながら、チョーライ病院で経験が少ない分野や手術支援、周術期管理(治療適応など)に関しては協力可能と思われれます。また当科にとっては国際的展開を見据えた場合には若手(特にレジデントや大学院生)の派遣の方が有意義であると感じました。